

第4回サステイナビリティ研究オープンセミナー

「ガーナにおけるカカオ副産物の現状と可能性」

2025.12.12 Fri. 15:00~17:30



場所：東京農工大学 府中キャンパス
西東京国際イノベーション共創拠点

ゲストスピーカー



エリック・クエシ・ナーティー

ガーナ大学
農学部長・教授



ダニエル・オツ

Koa Impact Ghana Ltd.
生産・オペレーション部長

使用言語: 英語 (Zoom字幕翻訳あり)
ハイブリッド開催 (対面・オンライン)



カカオ製品の
試食タイムもあります！



オンウォナアジマン・シアウ

東京農工大学・グローバル教育院
准教授



シルビア・パビティ

東京農工大学
西東京三大学共同サステイナビリティ
国際社会実装研究センター

お申し込みフォーム



プログラム

◆ 15:05-15:15

「開発途上国におけるサステイナブル・カカオ・プラットフォームの活動紹介」
澤田 ちひろ (JICAガバナンス・平和構築部ガバナンスグループ法・司法チーム)

◆ 15:15-15:50

「カカオ外皮を有効活用したバイオ炭堆肥の開発」
エリック・クエシ・ナーティー (ガーナ大学教授・農学部長)

カカオ外皮 (Cocoa Pod Husk, CPH) は、カカオ生産で大量に発生する副産物である。本研究では、このCPHをバイオ炭と混合してたい肥化し、廃棄物の資源化および土壤肥沃度の向上を目指す。得られたコンポストは病原菌を含まず、栄養バランスやリン含有量が高く、植物の発芽や根の成長を促進することが確認された。この取り組みによって、カカオ産業における廃棄物を再利用し、環境にやさしく生産性を高める、持続的かつ実践的な解決策として期待できる。

◆ 15:50-16:25

「カカオの果肉の有効活用によるカカオ産業の変革」
ダニエル・オツ (Koa Impact Ghana Ltd.・生産・オペレーション部長)

西アフリカの小規模農家は地域のカカオ生産の約80%を担っているが、その多くが貧困に直面している。カカオは季節性の作物であり、害虫や病気、気候変動、土地所有制度などの課題が農家の安定した生計に悪影響を与えている。また、多くの農家は乾燥したカカオ豆の収穫に注力しているため、カカオの果肉の約80%が廃棄されている現状がある。この背景には農家には廃棄部位の有効活用に必要な知識やインフラ、資金等が不足しているという問題がある。Koa Impact Ghana Ltd.は、農家を基盤とした分散型のモデルを開発し、こうした未活用のカカオの果肉に価値を付加することで、農家が追加収入を得られるよう支援するとともに、食品市場の消費者に新たな製品を提供することを目指している。

◆ 16:35-17:10

「ガーナのカカオ農家における貧困改善のためのカカオ副産物活用」
シリビア・パビティ (東京農工大学・西東京三大学共同サステイナビリティ国際社会実装研究センター)

ガーナは世界でも最高品質のカカオ豆の生産国として知られており、生産量では世界第2位に位置している。しかしその一方で、多くのカカオ農家はいまだ貧困状態にあり、この現状はカカオ栽培の魅力を低下させ、持続可能性を脅かす要因となっている。本研究では、ガーナ東部地域のカカオ農家から収集されたミクロレベルのデータを扱い、カカオ産業におけるカカオ豆以外の副産物を活用した別の収入源を模索し、農家が生計を改善できる可能性を探る。

◆ 17:10-17:20

「生分解性育苗ポットとマルチによるカカオ苗移植後の生存率の向上」
オンウォナアジマン・スィアウ准教授 (東京農工大学・グローバル教育院)

ガーナではカカオ生産が季節的な降雨に依存しており、気候変動により移植後の苗が干ばつなどで枯死する課題がある。本研究では、カカオ果実外皮を再利用して作製した生分解性ポットとマルチを活用し、苗の生存率向上を目指す。本セミナーでは、その予備的成果と持続的カカオ生産への応用可能性を紹介する。